

1 自己評価及び第三者評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2875201705		
法人名	医療法人 八十嶋病院		
事業所名	グループホーム花の風		
所在地	神戸市西区伊川谷町有瀬556-1		
自己評価作成日	令和2年8月10日	評価結果市町村受理日	令和2年11月6日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.wam.go.jp/
----------	-----------------------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人コミュニティ・サポートセンター神戸
所在地	神戸市東灘区住吉東町5-2-2-104
訪問調査日	令和2年10月1日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

花の風は三方を美しい緑に囲まれホーム前方には広い公園があります。敷地内の庭園には四季折々に草花が咲き乱れます。隣接のケアハウスの入居者様との交流も深まりより活発な日常生活を過ごしています。理念とする「明るさ・やさしさ・おらかさ」のもと、ご入居様がご自分らしく楽しく過ごして頂けるよう、職員によるきめ細やか見守り重視による安全確保とともにおひとりおひとりの自由と尊厳を守り、自然体でお過ごし頂けるよう支援に努めています。2ヶ月に1回開催される運営推進会議では、皆様の活発な意見交換の場としてホームの質の向上に活かさせて頂いております。又ボランティアグループの多くの方々にご支援、協力を頂いております。

【第三者評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

建物の中は三方を緑に囲まれた自然豊かな環境と調和する落ち着いた色調である。自治会のふれあい喫茶、保育園児の訪問、歌や踊り等の各種ボランティアなど地域との交流が深まっている。玄関、エレベータは施錠せず開放的で、入居者が外に出れば職員が必ず付添い、拘束感のない安全なケアに努めている。毎月手書きで入居者一人ひとりの写真入り通信「花のたより」を家族に送り好評で、毎年3月に開催する家族会は参加率8割である。風通しの良い職場環境を作って職員の意見を引出し、行事や施設運営等に活かしている。周辺の豊かな緑の中を散歩したり、外食や買物など日常的に外出していたが、コロナ禍の今は病院受診時以外全く外に出ず、地域との交流行事も自粛中である。お誕生日会でのケーキ作り等限られた機会を工夫して入居者に楽しんでもらっている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および第三者評価結果

グループホーム花の風

評価機関:CS神戸

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域に密着した介護サービスの運営方針や明るさ・やさしさ・おおらかさの理念の基、管理者、全職員が行動指針を確認共有しながら実践に取り組んでいる	運営理念「明るさ・やさしさ・おおらかさ」を額装して壁に掲示し、地域密着型サービスとしての運営方針3箇条、行動指針8箇条と併せて、入職時研修から職員に徹底するとともに、ミーティングで唱和したり、会議録に再掲するなどして、共有と実践に努めてきた。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会主催のふれあい喫茶やなごみ会、ボランティアや保育所園児との交流の実施等地域の一員として繋がりを深めている。ふれあい喫茶については、民生委員様御理解のもと、認知症の方々、車椅子の方にも参加頂いています	自治会が月1回開くふれあい喫茶には車で3、4人の入居者が毎回参加する。近くの保育園からは園児が年2回ほど訪れて歌や遊戯で交流する。踊りや歌等のボランティアも多数訪れ地域との交流は深まっているが、現在はコロナ禍で全て自粛中である。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域のボランティア様を受け入れ利用者様との交流を図り認知症の方々への対応をご理解頂き、今後ご協力頂けるよう呼び掛けている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回開催しており、入居者様、家族様、あんしんすこやかセンターの職員様、民生委員様、他施設管理者様、知見を有する方等の参加により多くの情報やご意見を頂いたり交換する機会としサービス向上に活かしている	運営推進会議は入居者と家族、地域包括支援センター、知見を有する者、他施設管理者等が参加して隔月で開催し、関連に意見や情報を交換している。コロナ禍のため今年4月からは国の通知を踏まえ、市と相談のうえ開催を見合わせメンバーと電話等で連絡を取った。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	区域に於いては、グループホーム連絡会等の場においての連携や利用者様の諸手続き等を通じて行き来する機会を持っている	区役所とは入居者の手続や区主催のグループホーム連絡会などを通じて連携している。あんしんすこやかセンターとは車で10分弱と距離が近いこともあって、日常的に交流・連携しており、時には入居希望の照会や相談も行っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	「身体拘束廃止に向けた研修、ケア会議」を行い、身体拘束ゼロが、続くよう努力している	身体拘束等適正化委員会を設け、研修も行って拘束のないケアに努めている。玄関、エレベータは施錠せず開放的で、入居者が外に出れば職員が必ず付添う。以前ベランダを乗り越えたことがある為、家族の承諾を得て居室掃出し窓を施錠している入居者が1名居る。	

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止については、外部研修、内部研修等を通じ意識は向上しています。虐待防止についての冊子、資料の回覧周知をし職員ひとりひとりが認識し今後も虐待が見逃される事がない様防止に努めている	虐待防止の研修を年2回行っている。職員に不適切な言動があれば、その場で注意したり、個別に指導して改善している。職員の心理的負荷が虐待に繋がることを防ぐため、ストレスチェックの研修を系列の介護老人保健施設と共同で行なった。		
8	(7)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	冊子、資料の回覧周知や成年後見制度の外部研修を受け理解を深めている	成年後見制度の保佐人を付けている利用者が3人居る。管理者は成年後見についての外部研修を受けたことがあるが、制度についての職員研修はまだ実施していない。成年後見等についての資料、冊子は窓口に置いて家族等の閲覧に供している。	権利擁護に関する制度のニーズは今後ますます高まるものと予想されます。成年後見等の制度に関する研修を行って職員の理解を深めていかれることを期待します。	
9	(8)	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時にはご本人やご家族の意見等を充分にお伺いし、また説明させて頂きご理解を頂く様にしている	契約時には、重要事項説明書や入居契約書などの書類を読み上げ、1時間くらいかけて丁寧に説明している。重度化したり医療が必要になった場合は病院や系列の介護老人保健施設等を利用頂くことなども十分理解してもらって契約をしている。		
10	(9)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様には日常の声掛け等を通じて意思疎通を図り、ご家族様に関しては、苦情相談の受付窓口を重要事項説明書に明記しご案内しています。また、施設玄関にも相談受付窓口を掲示していつでも相談できるようにし、頂いたご意見は早急に検討対応しています。	家族からは入居者との面会に来た時や運営推進会議、毎年3月に開催し参加率8割の家族会の折などに意見を聴く。もっと外出や外食をさせてほしいという家族の要望を受けて、回転寿司での外食を年2回行うようになった。		
11	(10)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議等の定期的な会議の場、また、職員から出た意見、改善点は早急に解決、会議を設けるとともに、何時でも職員の意見を十分に聞ける機会を設け職員の提案を職場に反映させている	職員が随時意見を言える風通しの良い職場環境づくりに努めている。月1回の全体会議では事前に職員の意見を募るレターを配布しており、行事のアイデアから不適切なケアの事例報告まで様々な意見や情報が寄せられ、運営に活かすことが出来ている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	労働時間においても職員の要望を確認し、柔軟に対応しています。資格取得等については待遇面で反映し意欲の向上を図っている			
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	認知症介護実践者研修、市民救命士講習等の積極的な受講、グループホーム連絡会や運営推進会議への参加、認知症研修受講等に取り組み職員スキルアップにつとめている			

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14			○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他施設運営推進会議参加や法人グループ内のサークル活動を通じ、交流の場を作りサービスの質の向上につなげている		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15			○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	面接時に得た情報を全職員で共有し、施設の生活に慣れて頂けるよう、特に精神面のケアに充分配慮し、聴くこと待つ事を大切に不安が解消していくように努めている		
16			○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	初回相談からご入居に至るまでご家族様等の不安、ニーズをよく聞いて受け止め、信頼関係の構築に努めている		
17			○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	初回相談時のニーズを見極め当ホームへのご入居が本当にご本人にとって適切かどうかも含めた対応に努めている		
18			○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご利用者様と職員は日々の暮らしと喜怒哀楽を共にし、人生の先輩である利用者様から学び支え合う関係を築いている		
19			○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族のご理解ご協力なしにはグループホームでのケアは成り立たないといっても過言ではなく、ホームとご家族はご本人を共に支え合う関係であるよう努めている		
20	(11)		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族ご親族はもとよりご友人等との関係性が継続できるように努めています。また、なじみの店や喫茶店などにお出かけする行事もおこなっている	コロナ禍で自粛中であるが、家族や友人の来訪は歓迎し、居室に椅子をお持ちするなどしている。馴染みのレストランに職員と一緒に行く方、家族と墓参等に行く方もいる。年に6回も歌やマジックで訪れるボランティアなど新しい馴染みの関係もできている。	

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価		
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
21			○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者様同士の人間関係を十分に把握し、ご利用者様同士が良い関わりが持てる様、またトラブルが発生しない様により良い関係性の維持に努めている			
22			○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	継続的な関わりを必要とされている方やご家族様に対してはいつでも相談頂けるよう対応し、他施設にご入所された方には相談員と連絡を取り経過をフォローしている			
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント							
23	(12)		○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご入居者様との会話などを通じ、思いや希望の把握に努めています。困難な場合でもできる限り希望に添えるように検討し近づけるように努力している	毎日、一人ひとりの日々の体調や気分の変化を日報とケース記録に記入して申し送り、全職員が共有できるように努めている。意思疎通が困難な方には家族や関係者から聞き取り、自分がされたくないことはしないように気を付けている。		
24			○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居相談時にご本人やご家族様から生活歴や暮らし方等について充分お聴きし把握してホームでの生活に活かせる様に努めている			
25			○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの一日の過ごされ方、心身状態、有する力、ホームでの人間関係等の現状を総合的に把握するよう務め、ケアプランに反映し支援している			
26	(13)		○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアプランの定期的な見直しの際にはご本人やご家族様の要望を確認し、モニタリング会議等を通して、又、入退院等緊急案件がある場合はその都度会議を行い作成している	介護職員は担当する人を固定せず全入居者に関わる。毎月モニタリングをして報告を行い、ケア会議と職員会議でケアプランの検討をしたうえで家族に報告している。本人や家族の思いや意見は面会時や電話で聞き取り、反映できるよう全職員で意見交換している。		
27			○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子、ケアの実践、結果、気づきは、管理日誌、カルテに詳細に記録すると共に情報を共有し実践や介護計画見直しに活かしている			

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28			○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者様の体調の変化やご家族様の状態の変化があれば、随時ご利用者様ご家族様職員間で話し合い見直しを行うと共に、必要に応じ他サービスとの連携も含めて、多機能化に取り組んでいる		
29			○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	月1回のふれあい喫茶・なごみ会の地域行事に参加させて頂く等、お一人おひとりが安全で豊かに暮らして頂けるよう支援している		
30	(14)		○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	母体が医療法人であり、また連携している病院も有り通常週1回の診察等を行っている。また入居前からのかかりつけ医等を主治医としたい旨のご要望等には必ず対応し、希望や必要が有れば、家族様の協力を得ながら受診できるよう支援している	事業所の協力医による往診を月2回受けている。かかりつけ医の受診を希望する方には家族の協力を得ているが、付き添いが困難な場合は職員が同行したり、介護タクシーを利用することもある。歯科医院の往診は毎週あり、必要な方は治療を受けている。	
31			○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職不在の為、日々の様子、ケアの実践、結果、気づきはすべて管理日誌、カルテに詳細に記録すると共に、かかりつけ医へ報告、電話連絡し、指示のもと適切な対応ができるよう努めている		
32	(15)		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院関係者とは密に連絡を取り、状態の確認等の情報交換に努め退院時には早急に入受できるよう支援している	入院時にはサマリーを提供し、日ごろの様子や健康状態などを知らせる。退院連絡があれば、家族か職員が迎えに行き、事業所に帰った状態で、医師を交え今後の方針を決めている。医療面のケアが多くなった場合は、病院や系列の医療系施設へ移ることもある。	
33	(16)		○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期に関しては、ご入居時に家族様の意向の確認をおこなっている。重度化した場合には面会時にご本人の状態やホームでできる対応の説明をおこない、家族様と話し合っている。遠方や忙しい家族様には電話、お手紙等により密に連絡を取り対応している。また地域の施設や病院の相談員と連携を取り、早急に対応できるよう取り組んでいる	入居時に、本人や家族の意向を聞き、重度化した場合の方針や対応を説明している。食事が食べられない状態になれば、医師と家族や関係者が話し合い、同法人の医療系施設や入院を検討し、安心して最期が迎えられよう意思を確認しながら取り組んでいる。	
34			○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時等にはすべての職員が初期対応を取り管理者・かかりつけ医に連絡し、必要に応じ医療機関へ即座に連絡受診対応できる様にしている。		

自己	者三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(17)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署と共に避難訓練等を実施するなどして避難する方法は周知できている。また大災害に備え食糧や飲料水等も3日分程度の備蓄を用意している	マニュアルにそって、年に2回、昼の時間帯の避難訓練を行っている。周り三方面が山に囲まれ、地域の民家や消防署とも離れており協力の依頼は難しい。避難所は地域の小学校になっているが、徒歩での移動にはかなりの時間を要する。備蓄品の用意はある。	近年、想定外の大きな災害が発生しています。夜間を想定した避難訓練や停電対策などにも備えた話し合いやマニュアルの再確認をされることを期待します。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(18)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	書類等の個人情報は、職員室に保管しており職員以外には入ることが出来ず、利用者様に対する声かけは丁寧に行っており、プライバシーには十分配慮している	接遇マナー研修を入職時と年1回定期的に行っている。排泄の声掛けは大きな声で言わないことを職員間で徹底し、さりげない言葉かけに努めている。個人記録や情報は適切に管理され、入居者や職員の事柄についても守秘義務の理解がなされている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様が自己決定できる言葉掛けを行い、ご自身で自己決定して頂いている。また、思いを聞き出せるよう支援している		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	買い物、散歩等は利用者様の意向を確認しながら体調に留意し見守りを大切に支援を行っている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	職員が、ご希望に添えるよう自室内の整理整頓等・衣類の用意など支援している。一緒に出来る入居者様は職員と一緒にいる。身だしなみについては1～2か月に一度の訪問理美容等で対応し、他の理美容院等のご利用も希望に応じている		
40	(19)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食べる事に興味のある方やそうでない方も楽しみを持って食事が出来る様に味付けや彩りに配慮し、食べやすい大きさにするなど工夫をしている。その日の気分や体調に合わせて食事準備から片付けまで負担のない範囲で職員と一緒にいる	隣接するケアハウスの厨房で作られたものを運び、好みや大きさに配慮して盛り付け、配膳している。その日の体調や気分により一緒に準備したり、片付ける人もいる。お誕生日にはケーキを焼きホイップクリーム飾りつけをするのが楽しみとなっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者一人ひとりの摂取量・水分量等、1日を通して記録し把握している		

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42			○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後には自立支援の為、又入居者様の力を引き出せるようご自分で磨いて頂き、その後職員が磨き残しがないか口腔内チェックを行い日常的に清潔を保てるように支援している。ご希望に応じて訪問歯科衛生士治療を行っている		
43	(20)		○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	リハビリパンツ、おむつを出来る限り使用しないで済むように、それぞれの排泄パターンを把握し、トイレでの排泄等自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表には詳しく個別の支援方法が記載されている。一人ひとりのサインを把握し、さりげなく声をかけトイレでの排泄ができるよう支援に努めている。夜間も定期的におむつやパットの交換をし、快適に過ごせるように工夫している。	
44			○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取や適度の運動をする事で排便を促し正常排便できる様努めている。排泄チェック表に個々の排泄を記録し一定期間排泄がない場合は主治医から処方されている緩下剤を服用する		
45	(21)		○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週2回程度の入浴を行っているが、体調に合わせてまた希望に合わせてその都度、日時の変更等も柔軟に行っている	希望があればいつでも入浴できるようにしており、毎日利用する方もいる。気がすすまない方にもその日の気分や体調を見はからって声をかけ、入浴が気持ちいいと感じてもらえるように気配りしている。着替え室と浴室の担当者がうまく連携している。	
46			○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの睡眠のリズムを把握し気持ち良く休んで頂き、又年齢や体調に合わせて昼間の睡眠も支援している		
47			○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員は入居者様が服用する薬の目的や副作用、用法、用量を周知しており、医師の指示通り服薬できる様支援し、また症状の変化を医師に伝達確認している		
48			○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者様の持つ得意分野を發揮して頂けるよう努め活力を引き出すよう支援し、調理、家事、歌、傾聴ボランティア、踊り等ボランティアの協力で活気有る日常を過ごせている		

自己	第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	買い物や散歩などの外出は気分転換になると捉え、可能な限り出掛けられるようにしている。ホームの広い敷地内や隣接する公園等を散歩し地域の方々と会話ができる関係が築けている	コロナ禍にある現状では外出や野外の行事などはすべて中止している。以前はふれあいサロン、喫茶、買い物同行など日常的に出かけていた。家族の協力を得て、本人が希望する昔なじみの店や場所等に行く人もいた。	コロナ禍で厚労省からも介護施設に対する規制はありますが、玄関から出て、数分だけでも外気を吸い、日光を浴びるようなプラン等の取り組みを検討されることを期待します。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居者様が金銭管理が出来ない場合は職員が記帳管理し、買い物が可能の方はその都度ご自身でお支払いして頂く等の支援をしています		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人から電話の要望があれば家族様の了解を得適切に支援できる様にしています		
52	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は音楽が静かに流れ、季節の花や利用者様が作成された作品を飾るなど居心地良く過ごせるよう工夫している。又リビングでは、テレビを見たりダンスや踊り、電子ピアノを置き皆が唄ったり、踊るスペースとして利用できる	窓からは緑の木々が見え、小鳥のさえずりも聞こえる。室内はこげ茶色の木材を基調に、調度品も洗練され、クラシック音楽が流れ、落ち着きを感じられる。お習字、絵手紙などの作品は一か所にまとめ、室内の雰囲気を保つよう工夫している。換気にも気が配られている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	広い共用空間は食堂部分と利用者様、来客者等がゆっくりとくつろげるリビングルームに分かれている		
54	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使いなれた家具、仏壇、生活用品を居室へ持ち込んで頂き利用者様がご自宅で過ごされていた時のように居心地良く過ごせる様に配慮している	ベッド、タンス、カーテンは備え付けている。在宅で使い慣れたテーブルや飾りダンス、テレビなどがあり、家族写真が飾られている。好きな洋服を並べて、自分らしい部屋づくりを工夫する方もあり、長年のその人らしい生活が継続できるように配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全を重視しつつも「できる事」「わかること」が生かされる様お手伝いすぎない努力をしている。特に「安全の確保」と「自立支援」のバランスを欠くような支援が見受けられた場合には職員間で十分な会議を持つようにしている		